

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

12月8日発行

第10号

文責 中野善文

会場を感動と笑いの渦に ～山形の魅力&山形中の魅力を発信～



山形中学校40周年を飾る「岩手県中学校総合文化祭」(11月24日)のステージ発表は、会場を感動と笑いの渦に包み込む素晴らしい発表でした。わたしは、何度も観ているはずなのに、思わず吹き出しまったり、思わず胸がゾーンとなったり、「故郷を大切に想う気持ち」を見事に伝えました。

会場にいらした、久慈地区中文連会長・松岡校長先生からは、「山中最高ですね。ぜひ久慈地区の生徒にも見せたい」とお褒めの言葉をいただきました。その他にも多数の校長先生方から「一番良かった」「すごい演技力だった」などの声が寄せられました。

また、岩手県教育委員会教育委員の宇部様からは、当日の感想を綴ったお葉書をいただきました。「県内の中学生もよい刺激をもらった発表でした。」「大舞台上で堂々と演技した山中生から元気をいただきました。」とそこには綴られていました。



2023年11月24日 朝刊
2023年(令和5年)11月24日(金曜日) 地域 (16)

古里思う心 闘牛に入魂

盛岡できょう県中学校総文祭

山形(久慈)が創作演劇

久慈・山形中学校専攻委員、生徒ら出演。盛岡市内の会場で行われた。闘牛の衣装を着た生徒が、観客を驚かせた。久慈地区の魅力を発信する。山形中や山形町の学校に勤務された方々からも、「山形町は本当に素敵などころ、それを中学生が大事に思っていることに感激した」という言葉をたくさんいただきました。久慈以外の方々からも同様の声が届いています。

横綱「白樺王」テーマ 地域の魅力発信

開催当日に、本校の演劇の取組が岩手日報で紹介されましたが、こちらについても大きな反響を呼びました。

11月27日に久慈地区退職校長会の先輩方とお会いした際にも、多くの方からお礼と激励の言葉をかけられました。久慈地区退職校長会長で第9代山形中学校長の日沢先生からは、「古里を思う中学生と山形の魅力を大事にしてくれてありがとう」とおっしゃっていただきました。山形中や山形町の学校に勤務された方々からも、「山形町は本当に素敵などころ、それを中学生が大事に思っていることに感激した」という言葉をたくさんいただきました。久慈以外の方々からも同様の声が届いています。

大きな節目を終えた今、感動に浸るだけではではなく、これから山形中が目指す道とゴールの姿を共有すべく新たな活動が始動しました。
バトンは、第42期生徒会に繋がれました。山形中の躍進は今後も続きます。



素敵な作文に出会いました。ほっこり ⇔ 鋭い感性！

JA共済児童生徒作品コンクール〈作文の部 特選〉

12月6日(水)の岩手日報に、素敵な作文が載っていましたので紹介します。

小学校の部の特選は、ママをヒーローに例えた内容で、心がウキウキするような温かさが感じられます。一方、中学校の部の特選は、鋭い感性で「多様性」について自分の考えを主張していて、「様々な人が活躍できる社会」の実現に向けた強いメッセージが感じられます。

ほくが楽しみにしていることは、ママが運転する大きなバイクの後ろに乗ることだ。ママはいつもヨレヨレのパパのTシャツをかりて着ていて、おけしようもしないでかみのけはボンバー。ママはパパとちがつて、スーツを着て変身することはない。それがいつものママ。そんなママが、ライダーになるらしい。ほくはとてもワクワクした。正気のヒーローみたい。女だから、ママだからなんてママには全く関係ないらしい。ママが、キラキラかがやき始めた。ママのチャレンジが始まった。

今までずっと家にいたママが、バイクの学校に行くために夜いなくなるのが多くなった。ママもほくと同じように勉強するんだと思った。「もうあきらめたらうほくは心配だよ。」でも、ママは、「ちようせんすることをあきらめたくない。」ママが、なんだかっこよかった。

たのヒーローになってきたからだとほくは思った。ほくは、ますますママのバイクの後ろに乗るのが楽しみになってきた。いつものママもほくはとても大好きだ。でも、今のママはもっと大好きだ。ママは、学校を卒業した。「大ちゃん！二人乗りは免許をとって一年以上たないでタメなんだって。まってね。」ほくの楽しみは一年間のびた。サンタさん、今年のクリスマスプレゼントはヘルメットをください。よろしくおねがいします。

作文の部 特選

ママライダー

盛岡市立向中野小2年 菊池 大杜

「多様性」。この言葉は毎日のように見聞きしている。新聞の大きい見出しや学校の道徳の授業で扱われるのはもちろん、学校の友達でも話題の中心になることがある。二〇二〇年代に入ってから急激に使われるようになったこの言葉はたくさんの人を救い、自分を認めてくれるような居場所となったことだろう。「多様性」という見出しでメディアに取り上げられている人たちは自分の性に悩まされてきた人や、身近な人との価値観のずれなどでショックを受けている人が特集されている。その影響もあってか、この人が社会に出たら入付き合い大変さだな、とか、ちゃんと職について活躍できるのかな、といった人ごとな疑問しか浮かび上がってこなかった。

うに話している友達には、果たしてその意味を理解しているのかと疑問に感じた。本当の意味を知らなくて「多様性」と検索をかけると「ある集団において性質の異なる群が共に存在すること」とある。また、多様性の具体的な例には人種や国籍、性別、年齢、障がいの有無、宗教、価値観など様々な方面から多様なあり方がある、といった具合だった。多様性という言葉一つにたくさんの方面から

とりが自分の持ち味を發揮し、最も高い活躍できる社会であってほしいと私は願っている。多様な性質を認めない否定しない考え方が広まった世の中になっても「性質の異なる群」と指された人が活躍できるような世の中にならなければならないだろうか。

私たちの住む盛岡市にはヘラルドポニーという福祉実験ユニットがある。そのユニットは「異彩を放て。」をミッションに掲げ、知

のように感性を爆発させて生き生きと活躍する人たちの想像するど、きつと明るい未来が開けると感じる。様々な人が活躍できる社会という点において、大きな一歩だと思った。

作文の部 特選

多様性を認める、その先へ

岩手大学教育学部附属中2年 八幡まゆみ

意味があり、宗教など自分が知らない部類の内容もあつた。様々な人が活躍できる社会はたくさん多様性に溢れ、一人が見聞きしたと以外にも考え方があつたのだと納得した。しかし、同時に様々な人が活躍できる社会とは「多様性」を認めるだけで済ませているのかと疑問に思う。以前目にした新聞などで特集されている人たちが活躍できる場はあるか？この世に存在し、生きている限り一人ひと

的障がいなどを持っていて障がい者から障がい者は健常者のケアがなくても社会で活躍することはできる。という決意なのではないかと私は考えた。障がいがある仕事ができない？健常者のように美しい絵は描けない？いや、違う。健常者にはできない斬新さや描けないアートが私を生み出される可能性があると思うのだ。私たちが住む盛岡はそんな街になっている。アートでもデザインでも自分の好き

いうことに変わりはない、でもこれからは障がい者は健常者のケアがなくても社会で活躍することはできる。という決意なのではないかと私は考えた。障がいがある仕事ができない？健常者のように美しい絵は描けない？いや、違う。健常者にはできない斬新さや描けないアートが私を生み出される可能性があると思うのだ。私たちが住む盛岡はそんな街になっている。アートでもデザインでも自分の好き

中学生の私たちにできることは何か。社会を動かすとか、そういうことはできないが多様性という言葉の本当の意味を知り、認め合える雰囲気があつたらいいなと思う。また「さまざまな人が活躍できる社会」の「さまざまな」には自分も含まれていることを理解し、他者とは違う考えや特性を大切にしたいと思った。私たちの考え方ひとつで「多様性たち」が活躍できる社会を築き上げることは可能だ。この世の中に溢れる数えきれない「多様性」を認める、その先へ。

良い文章に触れ、ものの見方や考え方・構成の参考にしてほしいと思います。本校の生徒も、今年度は様々なコンクールで入賞を果たしています。本校生徒の入賞作品は、後日紹介したいと考えています。おまけに冬の一句。「うまさうな 雪がふうはり ふわりかな」(小林一茶) 今朝も雪が積もっていました。雪をどのような視点で見ると印象が変わるのですね。